

JNSA ワーキンググループ紹介

データストレージ&セキュリティ WG

株式会社ネットマークス
データストレージ&セキュリティWGリーダー
内田 昌宏

■ はじめに

それは、ヒューコム・井上社長(JNSA 理事)から頂いた一通のメールから始まった。『日本データストレージフォーラム(以下、JDSF¹)から、JNSA への協力依頼があった。取りまとめしてほしい』と。

聞けば、JDSF では、データ・マネジメントの検討に際し、セキュリティは避けては通れない。データバックアップ認定制度なるものも規定され、益々、セキュリティに配慮した活動の必要を感じているとの事。

考えてみれば、セキュリティ関係の国際標準やガイドラインの中でも、「事業継続」や「バックアップ」の項目は存在するものの、表現は「定期的にバックアップを実施すること」「復旧、回復の訓練を行うこと」などといった表現に留まっているケースが多い。

本WGはこのような背景のもと、JDSF/JNSA 双方からメンバを募り、2003年6月に共同WGとして活動を開始した。

■ 設立の趣旨/活動の目的

事業継続性の向上を図るため、企業内やIDC²でストレージネットワークの導入や活用が進んでいる。しかし、ストレージの導入が進むにつれて、「蓄積されたデータをどうやって不正アクセスや破壊から保護するか」ということが重要な課題になってきた。

このため本WGでは、企業がデータの運用および保存を行なう際に指標となるような管理ポリシー作成や推奨システムモデルの策定を目指す。この指標は、現状のストレージ技術やメディア特性を加味したものであり、データの種類や目的による法的な根拠も必要と考える。またデータの可用性や原本性の担保のためのセキュリティ技術や基準等も盛り込まれるべきであり、ストレージとセキュリティの技術的な側面だけでなく、人を含めた運用までを考慮する必要があると考える。可能であれば、業種・業態毎に必要な実装レベルについても検討していきたい。

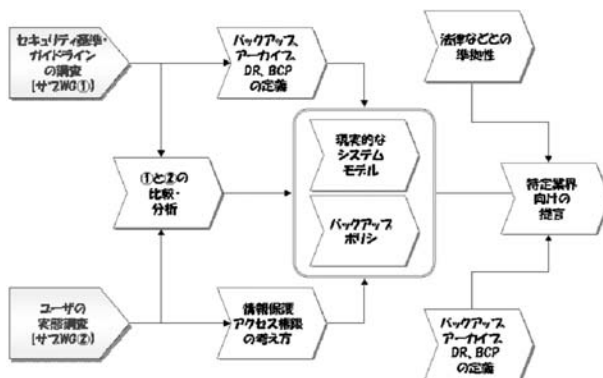
今のところ、本WGの成果物は、

- ・データマネジメントポリシーのサンプル
- ・関連する法律・法令、ガイドラインの提示
- ・ストレージ技術とセキュリティ技術を活かしたシステムモデル

を考えている。

■ 活動方針と現在までの進捗

1回目のキックオフミーティングに続いて、2回目および3回目のミーティングでは、双方の理解を深めるため、ストレージおよびセキュリティの全体像/市場動向/トレンドなどについての勉強会を行なった。具体的な活動を開始するにあたり、以下の2つのサブWGにてスタート[下図参照]。



[図：当面の進め方]

□ 基準・ガイドライン調査サブWG

○ 目的：

バックアップ/アーカイブ/事業継続などの言葉の定義と、各々を実施する目的や意図を正確に理解するため、既存のセキュリティ基準やガイドラインから関連項目を調査する。

○ 調査：

経済産業省(ISMS、セキュリティ監査基準など)、金融庁(検査マニュアル、FISC ガイドラインなど)、厚生労働省(医療分野情報化のためのグランドデザインなど)、総務省(住基ネット、個人情報保

¹ <http://www.jdsf.gr.jp>

² Internet Data Center の略

護など)、警察庁関係など

□ ユーザ現状調査サブWG

○ 目的：

ユーザ企業でのバックアップの実態を理解することを目的に、システムの方式やバックアップポリシー有無などを調査する。

○ 調査：

JDSFおよびJNSA会員企業他にアンケート形式で依頼

各サブWGでのミーティングとワークの結果、現在、「基準・ガイドライン調査サブWG」では基準ガイドライン調査レポートを作成。「ユーザ現状調査サブWG」では、アンケート内容がほぼフィックスした。



■ 今後の予定

ユーザ現状調査アンケートを実施(2004年1月頃から)し、その結果と“基準ガイドライン調査レポート”を比較検討することで、現実的なバックアップポリシーや、バックアップのためのシステムモデルを検討していく予定である。

なお平行して、「バックアップ」「アーカイブ」「ディザスタリカバリ」などの用語の定義も明確化していく予定である。

■ おわりに

外部団体とのコラボレーションWGは、JNSAにとっては初めての試みである。業界に留まらず広く外部と交流することで、より視野を広げていきたい。今回、共同作業を行なうJDSFは、ストレージ技術や運用技術を広く研究・発信しており、JNSAとJDSF双方の技術を共有し共同活動することで、今までにない成果が得られると確信する。